



Newsletter

日本教育社会学会会報 2021年5月

170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-14F ガリレオ学会業務情報化センター内

目次

会長からのお知らせ	1
第73回大会スケジュール	1
大会校からのお知らせ	2
課題研究のお知らせ	2
英語特設部会の発表者募集について	4
第14回若手研究者交流会 開催のお知らせ	4
会計部からのお知らせ	5
広報部からのお知らせ	5
年次研究大会支援部からのお知らせ	5
会員管理部からのお知らせ	5
編集委員会からのお知らせ	6
学会賞選考委員会からのお知らせ	6
人文社会科学系学協会男女共同参画 推進連絡会担当理事からのお知らせ	6
法人化検討ワーキンググループからのお知らせ	7
倫理ワーキンググループからのお知らせ	7
選挙管理委員会からのお知らせ	7
理事会の記録	7
常務会の記録	10
寄贈図書	13
新入会員／所属変更	13

会長からのお知らせ

あれから1年が経ちました。After コロナは未だ見通せませんが、with コロナには次第に慣れてきたように思います。それが、感染の拡大を招いていることも否めません。会員の皆様には、こうした困難のなか教育研究に励んでおられることと拝察いたします。

学会の最大のイベントである大会は、今年の「試行」がはずれ、通常の大会としての開催となります。大会校をお引き受けいただいた関西学院大学には大きなご負担をおかけしますが、研究は先送りにしないというご配慮に感謝申し上げます。会員の皆様は、昨年に引き続き、奮ってご参加ください。

4月の新年度に合わせて、学会のウェブサイトを更新し

ました。すでにご覧になられたでしょうか。さわやかなページをご堪能ください。内容をさらに充実させるべく、多々ご意見をお寄せください。

加えて、『教育社会学研究』もオンライン投稿が可能となりました。投稿の利便性を高めることにつながればと思います。さらに多くの会員からの投稿があることを願っております。

残された課題は学会の法人化です。これは、本来は2020年9月の大会総会で会員の皆様にお諮りする予定でした。しかしながら、コロナ禍の試行的オンライン大会となることで、総会において議論が尽くせないことを懸念して、先送りにした経緯があります。準備はできております。これを2021年9月の総会でお認めいただければ、次期の体制に引き継ぎ、あとは状況に鑑みての移行となります。これで学会の財政基盤は確立することになり、今後の学会運営の安心材料が増すことになります。

残された課題の1つが国際交流です。これまで安定的に実施されてきた台湾や中国との学会大会時における人の移動をとまなう交流がストップしてしまいました。2020年の大会ではオンラインの安定的接続が懸念され、海外研究者の招へいや発表を取りやめとしましたが、2021年度は何らかの回復があればと願うばかりです。

今後も引き続き、会員の皆様のご協力を心よりお願いいたします。

(会長：吉田 文)

第73回大会スケジュール

第73回大会は、関西学院大学を大会校としてオンラインで開催します。大会日程は下記の通りです。

9月10日（金）大会前日
 13：30～15：00 編集委員会
 15：00～16：00 常務会
 16：00～18：00 理事会
 19：00～21：00 若手研究者交流会

9月11日（土）大会1日目

9:00～11:40 研究発表Ⅰ
11:40～12:50 昼食
12:50～13:10 大会校挨拶
13:10～14:00 総会
14:00～14:25 学会奨励賞授賞式
[休憩]
14:40～16:40 研究発表Ⅱ
[休憩]
17:00～19:00 研究発表Ⅲ

9月12日(日) 大会2日目
9:00～12:00 研究発表Ⅳ
12:00～13:30 昼食・各種会合
13:30～16:30 課題研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

大会校からのお知らせ

第73回大会は、2021年9月11日(土)・12日(日)に、関西学院大学を大会校として、すべてのプログラムをオンラインで実施することに致しました。「何とか今年はキャンパスで、通常開催が出来ないかな・・・」と個人的には思っていたのですが、新型コロナウイルスの感染は未だ収束の気配がなく、このような判断をさせて頂きました。関西学院大学に来訪することを楽しみにしておられた皆様には、大変申し訳ございませんが、何卒ご理解頂ければ幸いです。せめてもの企画として、キャンパスのバーチャルツアーのような動画を作って、公開する予定でございます。

オンライン大会の概要につきましては、昨年の第72回大会をおおむね踏襲した形を予定しております。全体のプログラムは、1日目に総会・学会奨励賞授賞式・研究発表などがあり、2日目に課題研究・研究発表があるという例年のパターンと同じです。研究発表は、ライブ型とオンデマンド型を発表申込時に選んで頂く形になります。昨年のオンライン大会と異なる点としては、学会員以外の方の参加も可能とする、さらに充実した大会とするため、大会参加費を変更する方向で、準備を進めております。

昨年の大会は、大会開催に関わったすべての皆様のご尽力のおかげで、成功裡に終わったと言っていると思います。「オンライン大会だったからこそ出来た」ということも予想より多かったのではないのでしょうか。この経験を今回も生かして、より良い大会を、皆様とともに作り上げていく所存でございます。会員の皆様におかれましては、様々なイレギュラーな日常が続いているかと存じますが、多くの発表申込、大会参加申込をお待ちしております。どうぞよろしくお願い致します。

(大会校理事：富江英俊)

課題研究のお知らせ

第73回学会大会では、以下の3つの課題研究部会を設定いたします。いずれもたいへん意欲的な試みですので、ぜひ多くの会員のみなさまにご参加いただけますことを期待いたしております。

(研究委員長：山内乾史)

課題研究Ⅰ概要

担当：原清治（佛教大学）

テーマ：「学校で起こる教育課題に教育社会学はどう貢献できるか？(2)」

—不登校・学校への行き渋り現象を「生きづらさ」との関連で考える—

わが国における学校をとりまくさまざまな問題は、学校で起こる教育課題にとどまらず大きな社会的な課題にまで発展する勢いを見せている。その中心的な問題として指摘されるのがいじめ、不登校などである。いずれも子どもたちの人間関係に起因し、それが「息苦しさ」や「生きづらさ」といった現象に収斂され、解釈されることが多い。

課題研究Ⅰの1年目は、教育社会学の知見を踏まえつつ、今後どのような形で教育課題の問題に「貢献」すべきかについて、いじめを中心に研究を進めてきた。

2年目の課題研究Ⅰでは、子どもたちの「生きづらさ」に注目して不登校をとりあげたい。その際に、コロナ禍で見えてきたいくつかの現象についても視野に入れる必要がある。そのひとつがこれまで不登校気味だった子どもたちのなかに「再」登校するケースが報告され始めていることである。コロナ以前から学校における人間関係の形成やスクールカーストにみられる人間関係の階層性など、子どもたちの生きづらさとして指摘される研究がある。つまり、不登校は「なぜ行きづらくなったか」だけではなく、その現象の背景にある子どもたちの変化に着目することが再検討されるべきであろう。

研究課題Ⅰでは、この不登校にどのように接近していけばよいのかといった視点をもった研究者に登壇してもらいたい。教育社会学のみならず学校臨床学や臨床心理学などの研究者も交えて横断的な視点から不登校の現象について考えてみたい。

話題提供者

土井 隆義（筑波大学）（非会員）

鈴木 翔（秋田大学）

加藤 美帆（東京外国語大学）

須永 祐慈（NPO法人ストップいじめ！ナビ）（非会員）

指定討論者

松浦 善満（大阪千代田短期大学）

司会

原 清治（佛教大学）（研究委員）
山内 乾史（神戸大学）（研究委員）

（研究委員：原清治・山内乾史・作田誠一郎・浅田瞳）

課題研究Ⅱ概要

担当：大多和直樹（お茶の水女子大学）
山口毅（帝京大学）

テーマ：「能力主義を問い直す」

教育社会学において能力主義＝メリトクラシー（能力や業績を財の分配の基準とすること）を根本的に批判する研究は、ほとんど存在しない。教育機会の不平等の検証を目的とする研究に典型的なように、能力主義自体の望ましさはあらかじめ前提とされていることが多い。論争の賭金はおおむね、「どのような能力主義が望ましいのか」に置かれていたといえるだろう。

このような研究上の姿勢は経験的研究を蓄積する上では有利な自己限定だったかもしれないが、それによって理論的想像力と実践的可能性を犠牲にしていないかどうかは検討の余地がある。とりわけ、出身階層による教育達成・職業的地位達成の格差解消を目指す「機会の平等」の理念が、地位や所得の不平等という「結果の不平等」を正当化する位置にあることの問題は、十分に反省的に考察されてこなかったのではないだろうか。格差社会化・貧困化が進行しつつある現在の日本社会において、この問題のもつ重みは小さくない。

能力や業績による分配を理想に掲げて所得の不平等を正当化する近代資本主義体制は、能力主義批判の難しさの大きな要因である。機会の平等を伴った能力主義を教育社会学が追求してきたのは、この体制を前提としたためだろう。だがしばしば指摘されてきたように、能力主義には少なからぬ問題がある。そもそも能力は直接測定できず、業績の基準も一義的には定まらない。機会の平等によって公正を担保しようとしても、機会の平等化を予想した産業化命題は破綻しており、大筋では学校は階層再生産の装置たらざるを得ない。資本主義の行き詰まりが言われ、対抗的な知にも注目が寄せられる現在、能力主義を擁護しながら格差・貧困に取り組む姿勢は決して自明でない。そのように考えるならば能力主義批判の言語化に向けて、「能力・業績に応じた分配」ではなく「必要に応じた分配」を求める立場からの論考が、ひとつの立脚点となり得るだろう。

本課題研究では、「必要に応じた分配」を求める立場に依拠する研究者を学会内外から登壇者として招き、政策論、規範理論、思想史等の観点から能力主義批判を展開してもらう。指定討論者には、能力主義を擁護する立場を代表して討論してもらう。議論を通じて能力主義批判／能力主義擁護の射程と内実を吟味することがこの部会の目標となる。

話題提供者

金井 利之（東京大学）（非会員）
桜井 智恵子（関西学院大学）
広瀬 義徳（関西大学）（非会員）

指定討論者

大多和 直樹（お茶の水女子大学）（研究委員）
広田 照幸（日本大学）

司会

寺崎 里水（法政大学）（研究委員）
山口 毅（帝京大学）（研究委員）

（研究委員：居郷至伸・大多和直樹・都村聞人・寺崎里水・長谷川誠・堀健志・山口毅）

課題研究Ⅲ概要

担当：山田肖子（名古屋大学）

テーマ：「『持続可能性』の知識社会学と越境的思考」

「持続可能性」という言葉は、1990年代に環境保全や生物多様性の確保という意味で使われ始めた。この言葉は、次第に多文化共生や国際的な政治社会課題への理解なども含む意味に拡張されてきた。2015年に国連サミットにおいて持続可能な開発目標(SDGs)が合意され、その意味拡張は更に進んでいる。現在、日本の学習指導要領でも、学校教育で取り上げるべき内容として、「持続可能性」が挙げられている。

本課題研究では、このように変化しつつ正統性を増しているように見える「持続可能性」という概念が、社会的に構成されたものとする。多義的でありながら道徳的な態度変容を促すこの言葉が、現代の様々な言説の基礎知識のようになっていった経緯に、どのようなアクターが関わり、彼らの目的や力学がどのように社会の共有知の生成に影響しているのか。この課題研究では、「持続可能性」という単語を入り口として、知識の生成について議論することを目指す。「学校」という制度枠組みを超えた知識伝達について考察することは、教育社会学が取り組んでいる諸テーマにも異なる視点を提示する可能性があるのではない。

パネリストの一部が行っているネット上の「持続可能性」に関する言説の定量的分析、バーチャルな空間での議論を作り出している社会集団の社会心理学的分析、ネット上での知識生成に関する哲学的思索を議論の出発点とする。

話題提供者

山田 肖子（名古屋大学）（研究委員）
仁平 典宏（東京大学）

唐沢 穰（名古屋大学）（非会員）

指定討論者

久木田 水生（名古屋大学）（非会員）

松浦 良充（慶應義塾大学）（非会員）

司会

天童 睦子（宮城学院女子大学）

江田 英里香（神戸学院大学）（研究委員）

（研究委員：山田肖子・北村友人・江田英里香・芦田明美・大東直樹）

英語特設部会の発表者募集について

第73回大会（関西学院大学）での英語特設部会は、特定のテーマを設けず、広く発表を募集いたします。様々な分野での研究蓄積を国際的に発信しようとする意欲ある方々の応募を期待しています。発表は英語によるものとし、質疑応答も原則英語を使用します。

また、オンラインであるため、海外の方々も容易に発表が可能です。英語特設部会では、会員ではない方々の発表も受け入れてきました。海外の研究者に発表の機会があることを、ぜひお声かけください。海外の研究者、個人でも、また、会員との共同研究でも構いません。ぜひ広くお誘いいただければ幸いです。

発表申し込み期間は他の部会と同様、5月10日（月）から6月4日（金）18時までです。また、発表要旨はA4、2ページで、受付期間は6月14日（月）から7月14日（水）18時までです。

なお、特設部会に応募された場合は、一般部会の発表に応募いただけないことをご承知おきください。

【部会の概要】

- （1）部会日時：後日、プログラムと同時に発表します
- （2）発表・質疑応答の言語：原則として英語
- （3）発表要旨・資料の言語：原則として英語
- （4）発表時間：25分（発表20分＋質疑応答5分）

【発表の申し込み方法】

申し込みは、国際部英語部会担当

jses.international.session@gmail.com宛にメールにてお願いします。メールには、以下の項目を明記してください。

- （1）氏名、所属
- （2）発表タイトル
- （3）キーワード3つ

お問い合わせは国際部jses.international.session@gmail.comまでお願いします。

The 73rd JSES Annual Meeting will be held on September 11th & 12th online. There is no specific theme for the International Session in English this year. We welcome any applicants who are willing to disseminate

research findings in various fields to the international audience. All presentations in this session will be in English, and discussions will also basically be in English.

The deadlines are the same for the sessions in Japanese; applications should be made between May 10th and June 4th by 6 pm; a 2-page abstract should be submitted between June 14th and July 14th by 6 pm.

Please note that if you apply for this international session, you cannot apply for any concurrent session in Japanese.

【About the Session】

- (1) Date and time: To be announced.
- (2) Language used in the session (oral): Mainly in English.
- (3) Language used in the session (written): English.
- (4) Length of one presentation: 25 minutes (20 minutes presentation and 5 minutes discussion.)

【How to Apply】

Applications and the 2-page abstract should be submitted to the Directorate of International Affairs by email at jses.international.session@gmail.com.

In your application e-mail please give the following information:

- (1) name and affiliation
- (2) title of the presentation
- (3) 3 keywords for the presentation

Contact information: jses.international.session@gmail.com

（国際委員長：山田浩之）

第14回若手研究者交流会 開催のお知らせ

若手研究者交流会を、大会前日の9月10日（金）に開催します。

若手研究者交流会の目的は、大学院生をはじめとする若手の研究者が、研究室・大学をこえた交流をととして、研究上の関心や課題と新たな気づきを共有し、また研究者相互のネットワークを拡充することです。本交流会を担当する教育部では、できるだけ若手の目線で企画を立てるべく議論を重ねています。

開催概要は、下記のとおりです。昨年と同様に、2つのラウンドテーブルを設けます。詳細は追って、会員メールや大会プログラム等でお知らせします。なお、懇親会は開催しません。

【日時】2021年9月10日（金） 19:00～21:00

【場所】オンライン開催

【参加対象】教育社会学に関心をもつ大学院生や初期キャリア段階の研究職従事者など（非学会員も参加可）

【申込方法】オンラインフォームを用いた申込

【参加費】無料

【ラウンドテーブルの構成】

▼ラウンドテーブルⅠ——大学院生のサバイバル・ストラ

テジー

・大学院生の関心や課題についての話題提供と質疑応答の後、小グループで交流

・テーマ例：入会学会、年間計画、修士・博士論文、学外の研究者との交流、論文投稿、助成金獲得

▼ラウンドテーブルⅡ——若手大学教員のキャリア・マネジメント

・大学専任教員の初期キャリア段階（任期付・ポストク含む）を想定した話題提供と質疑応答の後、小グループで交流

・テーマ例：講義や演習の題材、ゼミ・卒論指導、学内業務、依頼原稿、助成金獲得

（教育部長：内田 良）

会計部からのお知らせ

会費の納入について

会員のみなさまには、7月頃に2021年度（本年実施の大会終了後から来年実施の大会まで）の会費の請求書をお届けします。なお、2020年度会費の納入がまだお済みでない方は、至急納入をお願いします。一般会員（会費：11,000円）、院生会員（同：7,000円）、留学生会員（同：5,500円）の区分となります。お届けしている振込用紙には、会員区分に応じた金額が印刷されております。振込用紙がお手元にない場合、下記の郵便振込口座にお手続きください。また、学会ウェブサイトには「年会費オンライン決済」（英語サイトでは「Annual Membership Fees Online Payment System」）のボタンから、オンラインシステムを用いてクレジットカードによる支払い手続きを行うこともできます。ご都合の良い方法でお手続きください。

なお、会費の納入状況は、学会ウェブサイトの「会員情報システム」にログインした後、「年度別に会費を照会する」から確認することができます。

<会費振込先>

郵便振込口座 00100-7-278708

口座名義人（加入者名）日本教育社会学会

（会計部長：島 一則）

広報部からのお知らせ

1. 学会ウェブサイトリニューアルについて

2021年4月1日に、学会ウェブサイトのリニューアルしました。目的別メニューを設置する、レスポンシブデザインを導入しPCのみではなくスマートフォンにも対応するなど、会員の皆様にとって、より使いやすい構成にするように努めました。新しいウェブサイトのURLは下記のとおりです。ぜひご活用ください。なお、旧サイトから新サ

イトへの自動転送期間は3か月（6月末まで）です。

新URL <https://jses-web.jp/>

2. 『教育社会学研究』のJ-STAGEへの登録・公開状況について

4月1日に、第104集に掲載された論文ならびに書評が登録・公開されました。こちらにつきましても、ぜひご活用ください。

（広報部長：濱中淳子）

年次研究大会支援部からのお知らせ

年次研究大会支援部では、大会プログラムに掲載される広告の掲出依頼と原稿取りまとめを行っていますが、近年、掲載件数が大きく減少しています。前回大会プログラムをご覧ください、他にも、広告掲出に応じていただけたような出版社等をご存知でしたら、会員の皆様のご研究成果を学会内外に広く知っていただく良い機会にもなりますので、ぜひご教示いただけますようお願いいたします。

5月31日（月）までに、出版社等のご担当者様のご連絡先とともに、次のメールアドレスまでご一報ください。お待ちしております。

jses.nenji@gmail.com

（年次研究大会支援部長：朴澤泰男）

会員管理部からのお知らせ

1. 異動にともなう会員情報の更新について

現在、下記の正会員区分による学会年度会費の納入制度となっております。

一般会員	11,000円
院生会員	7,000円
留学生会員	5,500円

（詳しくは学会HPの「学会紹介」－「学会情報変更・退会」のページにある「会員情報の変更について」をご覧ください）

会員区分は「会員情報管理システム〈SOLTI〉」の情報に従って設定されますので、就職、異動、所属変更など、会員情報に変更があった方は、学会ホームページから〈SOLTI〉にアクセスして会員情報の更新をお願いいたします。

2. 会費納入時期と投稿・大会発表資格について

本学会運営内規により、学会機関誌への投稿、および年次研究大会での発表には、その年の4月末日までに会費（4月末日時点の年度の会費）を納入していることが資格要件となっております。これまでも会費の納入が遅れ資格を失うケースが見られましたので、改めてご確認ください。

新入会員も、他の会員と同様、4月末日までに入会の手続き（会費の振込と入会申込）をしなければ、大会発表資格を得られませんのでご注意ください。なお、新入会員が学会機関誌に投稿する場合は、従前のとおり、学会機関誌の投稿締切日までにHP上より入会申込するとともに、会費を納入していることが要件となります。

3. 学会の入会年度の取り扱いについて

学会の入会年度については、2021年8月20日までに入会手続きを行い、会費を納入した場合、2020学会年度での入会とし、2021年8月21日以降に入会手続きを行い、会費を納入した場合、2021年学会年度の入会として扱うこととなっております。本年度の研究大会に会員として参加を希望される場合、この日時にご留意ください。新入会員をご紹介いただく場合、入会を希望される方へ、このことを周知のほど、よろしくお願いいたします。

4. 【SOLTI】所属先(英語)情報の入力をお願い

会員情報システム〈SOLTI〉に英語にて所属先（所属機関・学部（事業所）、学科（部署）、役職）を入力する欄が追加されました。これは学会の国際化の一環として英語による会員情報を整備するものですので、会員の皆さまにおかれましては是非とも情報の入力をお願い申し上げます。

5. 会員検索システムのご案内

日本教育社会学会では、会員情報を「オンライン名簿」で検索することができます。学会ホームページから「会員検索システム」にアクセスしてご利用ください。先にお知らせしましたように、自宅住所・電話番号を検索したい場合も、同システムをご利用ください（ただし、自宅住所・電話番号を検索できるのは、これらの情報を開示するように設定している会員に限ります）。

6. 自然災害等による被災者減免措置について

日本教育社会学会では、自然災害等による被災者減免措置を行っております。学会事務局までご相談ください。
(会員管理部長：白松 賢)

編集委員会からのお知らせ

編集委員会では、現在108集の編集作業を進めており、このブリテン刊行と前後して雑誌が届くものと思います。特集テーマは、「「アジア」という視点から見る教育」です。また、投稿論文につきましては、投稿37本、受理35本、掲載予定は5本となっています。

また、すでにホームページやメールでご案内させていただきました通り、109集（2021年5月10日メ切）の投稿受付時よりオンラインでの投稿システムを導入いたしました。合わせて投稿規定の改訂および投稿テンプレートの導入もおこない、学会ホームページに掲載しておりますので、今後の投稿の際には必ずご参照ください。

(編集委員長：中村高康)

学会賞選考委員会からのお知らせ

学会賞選考委員会は、2021年3月8日（月）に、第9回奨励賞（著書の部）の推薦を締め切り、資格審査をしたうえで著書5点を対象に選考を開始しました。2021年6月には選考を終了し、9月の学会大会において選考結果の報告と表彰を行う予定です。

なお、選考委員会の構成は以下の通りです。古賀正義（長）、村澤昌崇（副）、今田絵里香、岡本智周、越智康詞、清水睦美、堀有喜衣、山本雄二、李敏

(学会賞選考委員長：古賀正義)

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会担当理事からのお知らせ

1. 本学会2020学会年度第1回理事会（2021年1月9日開催）で、企画部から、人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS：ギース）への対応の充実、ならびに本学会内における男女共同参画を含むダイバーシティ推進に向けて、GEAHSS担当理事を1名増員し、既存の部署が連携する形での「ダイバーシティ推進部（仮称）」の新設に向けた検討を開始することが提案され、了承されました。これに伴い、同日付けで、現担当理事の多賀に加えて木村涼子理事（大阪大学）が新たにGEAHSS担当理事に就任することが了承されました。

2. 2021年3月28日に、GEAHSS第4期運営委員会第1回（通算第7回）がオンラインで開催されました。毎年10月から翌年9月までを1期とし、第4期の今期からは、前期に副幹事を務めた学協会が次期に幹事を務める体制がスタートしております。この度、第7期（2023年10月～2024年9月）までに正副幹事担当予定の学協会が報告されましたが、本学会がその期間に正副幹事を担当する予定はいまのところありません。

また、現在企画が進められている「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」（第2回）について、第8期（2024年10月～2025年9月）での報告書完成を目指す計画、ならびに調査実施後に一定期間を経てデータセットを外部のデータアーカイブに寄託して公開することが了承されました。

3. 2021年3月28日、上記運営委員会に続いて、GEAHSS公開シンポジウム「今こそアクションを！人文社会科学からの発信」がオンラインで開催されました。森永康子氏（広島大学）による基調講演「ジェンダー・バイアス研究の最前線」に続き、日本教育心理学会、日本スポーツとジェンダー学会、日本文化人類学会におけるジェンダー平等に向けた取り組みと、加盟学協会対象のアンケート結果の報告が行われました。

GEAHSSの情報については、ウェブサイト (<https://geahssoffice.wixsite.com/geahss>) もご参照ください。

(人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会担当理事：多賀 太)

法人化検討ワーキンググループからのお知らせ

本ワーキンググループでは定款など法人の規則案を作成して、2020年2～4月および7～8月の2回にわたり会員パブリックコメントを募集いたしました。会員各位には貴重なご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。これをふまえて定款、会則、規則の第3次修正案を作成し、理事会の承認をへて、2021年1月に学会ウェブサイトにて公開しました。修正の意図の説明である「第2回パブリックコメントの結果と定款等規則の改訂案」もあわせて公開しています。

法人化にかかわる会員パブリックコメントはこれまでとしますが、今後ともご意見がございましたら、遠慮なくお寄せくださるよう、よろしくお願い申し上げます。ワーキンググループでは、法人化による事務運営の主な変更点を整理して、さらに準備を進めています。

(法人化検討ワーキンググループ長：塚原修一)

倫理ワーキンググループからのお知らせ

倫理委員会規程案に関するパブリックコメントを2021年2月15日(月)～2021年3月3日(水)の期間で募集しました。4件のご意見をいただき心より感謝いたします。倫理WGで慎重に検討した結果、修正案を作成し、今回の理事会で提案の準備を進めています。今後ともご意見等ございましたら、お寄せ下さいませようお願いいたします。また倫理規程に記載されている倫理ガイドラインについても、現在、倫理WGで内容を検討しています。

(倫理ワーキンググループ長：片岡栄美)

選挙管理委員会からのお知らせ

2021～2022年度の理事選挙の投票期間は、2021年5月24日(月)～6月9日(水)を予定しています。投票はオンラインの方式で行います。多くの方の投票をお願いします。なお、2021年4月30日(金)現在の事務局所管の会員の登録簿により、選挙人・被選挙人名簿を作成します。選挙区は所属機関やご自宅の住所に基づき決定されます。

(理事選挙管理委員長：加野芳正)

理事会の記録（抜粋）

2019学会年度第4回理事会（2020年9月4日 zoom オンライン開催）

I. 報告事項

1. 会長報告

吉田会長より、第72回大会について、初のオンライン開催にいたる経緯の説明があり、本大会（試行）を有意義なものとしたいとの発言があった。

2. 事務局長報告

天童事務局長より、2019学会年度の理事会・常務会の開催状況、大会実行委員会組織の概要（吉田会長が大会実行委員長を兼任）、オンライン大会運営のあり方について説明があった。

第72回大会に関して、山田哲也理事より、大会終了後にオンライン大会参加者アンケートが提案され、今後の対応に役立てるため事後調査を実施する方向で、了承された。

3. 会務報告

1) 総括報告

天童事務局長より、2019学会年度においては、理事会4回、常務会8回（臨時2回を含む）を開催し、各種課題の検討と決定を行った旨、報告された。とくに新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当初予定していた大会校から2020年5月時点で辞退の申し出があり、常務会で急きょ対策を講じたこと、COVID-19対策特別WGを設置し、常務会を中心に大会実行委員会を組織したことが報告された。

2) 企画部報告

中澤企画部長より、主に①教育部事業の整理、②編集委員会・査読体制の検討、③ポスターセッションの導入を提案し、③に関しては今年度大会のオンライン開催で試行的にオンデマンド型報告の形で実現したことが報告された。

3) 会計部報告

島会計部長より、一般会計の出納と各種学会口座の管理、会計監査の依頼、2019年度決算案と2020年度予算案の作成報告があった。

4) 会員管理部報告

白松会員管理部長より、①現時点での会員数、②入退会、会員異動に関する業務、③学会費の長期滞納者の催促、④選挙管理委員会の準備状況が報告された。

5) 広報部報告

濱中広報部長より、①ブリテンの発行、②会員への一斉メール送信、③『教育社会学研究』のJ-STAGE登録、④学会ウェブサイトの更新、⑤学会ウェブサイトのリニューアルに関する検討の報告があった。

6) 年次研究大会支援部報告

朴澤年次研究大会支援部長より、①大会プログラム作成を依頼する業者の選定、②大会プログラム原稿の編集、③大会プログラム広告依頼と版下の受領（41社に広告掲載を打診し16社から掲載を得た）、④大会時各部会の司会者の依頼、⑤発表要旨集録原稿の編集、⑥各部会司会者への

発表要旨の事前送付、⑦大会ウェブサイト用のバックデータに関する作業、⑧大会ウェブサイトの表示状況の確認や修正等の作業を行ったこと、このうち②⑦⑧はオンライン大会開催に伴う作業であったことが報告された。

7) 教育部報告

内田教育部長より、大会前日開催の若手研究者交流会に多くの参加申込があったことが報告された。例年3月に実施していた若手研究者セミナーを廃止し、新たに自主セミナー支援を企画しているが、コロナ禍のため検討段階であることが報告された。

4. 編集委員会報告

中村編集委員長より、第106集の編集・刊行状況、第107集の編集と査読状況、第108集特集テーマと執筆者の決定、東洋館出版社との契約が例年通り行われたことが報告された。加えて、企画部提案をうけて進めてきた査読体制の合理化については、編集委員以外の外部委員の拡充を行い経過が順調であること、オンライン投稿システムに関しては、今後導入の見込みであることが報告された。

5. 研究委員会報告

山内研究委員長より、第72回大会における3つの課題研究の企画・運営、大会が急きょオンライン開催となったことから研究大会の運営にかかわる案を作成し常務会で提案したこと、プログラム編成案の作成を行ったことが報告された。

6. 国際委員会報告

山田国際委員長より、新型コロナウイルスの影響により、例年行ってきた国際学会からの招聘、国際交流支援、英語特設部会の実施が困難であったことが述べられた。

7. 学会賞選考委員会報告

古賀学会賞選考委員長より、第9回奨励賞（論文の部）の選考過程と結果について説明があり、厳正な選考の結果、幅広いテーマの3点の受賞作が決定したことが報告された。

8. 社会調査士協会担当理事報告

岩井理事より、2020年度科目認定結果、2019年度社会調査士資格・専門社会調査士資格の認定結果、委員会旅費の削減等による財政状況、新体制の発足について報告があった。

9. 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(GEAHSS) 担当理事報告

多賀理事より、会費制度の導入、加盟学協会の中での持ち回り幹事制、「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）報告書」の刊行、政府向け要望書「人文社会科学分野における男女共同参画推進に向けての要望」の提出について報告があった。

10. 教育関連学会連絡協議会の担当理事報告

吉田会長より、2021年3月の総会と公開シンポジウム、「教育学分野の参照基準」の画定等について報告があった。

島会計部長より、2019会計年度一般会計決算案と特別会計決算案が提示された。特別会計については、オンラインでの大会実施となり、当初の予算案では対応が難しい状況であったことから、特別会計の研究奨励・学会活動活性化基金から、大会補助費として追加措置を行ったことが報告された。合わせて累年会計構成表、監査報告について説明があった。以上の説明のうえ、2019会計年度決算案について承認された。

2. 2020会計年度予算案について

島会計部長より、2020年度予算編成の基本方針にかかわって、収入・支出の設定、特別会計、その他について説明がなされた。一般会計は、学会HPリニューアルの実施、理事会・事務局経費や各委員会経費の減額を行うこと、ただし、編集委員会経費は、減額を行なった上で、オンライン投稿化に関わる経費としての15万円を増額する形とすることが説明された。これらをふまえて濱中広報部長より、学会HPリニューアルの検討状況について補足説明があり、従来のHPデザインの刷新やセキュリティ面の強化の必要性から、ウェブリニューアルの準備作業を進めており、2020年度中の実施を検討していることが述べられた。あわせて吉田会長より、HPは学会の顔であり、オンライン活動の増加にともない利便性と安全性の高いものをこの機会に導入したいとの発言があった。以上をふまえ、2020会計年度予算案が承認された。

3. 入会の承認について

白松会員管理部長より、オンライン大会参加時の入会希望者について説明があり、入会について承認された。次年度以降の対応について、理事会等への承認申請の事務処理上、8/20までの入会申込と学会費納入は2020年学会年度の入会手続きとして対応する旨説明があり、ブリテンやHP等で会員に告知することが提案され了承された。

4. 編集委員会委員（増員）の承認について

中村編集委員長より、一人あたりの査読本数の多さ等を考慮し、編集委員の増員について提案があり、承認された。

5. 選挙管理委員会について

白松会員管理部長より、2020学会年度理事選挙管理委員会の構成メンバーについて提案があり、承認された。

6. 学会の一般社団法人化の検討

塚原法人化WG長より、1) 法人化の意義と現行制度からの変更点、また工程表の作成を行い、常務会や理事会への説明や、学会ウェブサイトでの概要の掲載を行ったこと、2) 定款など法人の規則案を作成し、学会ウェブサイトで会員からのコメントを2回に渡り募集した上で最終案を作成したこと、3) ガリレオとの会合を行い、法人化を進められる状態にあることを確認したことが報告された。

この点吉田会長より、法人化実施の体制は整っており、本来は2019学会年度の総会で法人化の審議を行う予定であったが、新型コロナウイルスによるオンライン大会開催で経費と労力ともに必要になったことから、次年度以降に延期することとなったことが説明された。

7. 倫理委員会規程案の検討

片岡倫理WG長より、前回理事会の指摘をもとに、修正

II. 審議事項

1. 2019会計年度決算案について

案が提出された。この委員会の設置意義を理事や会員に共有する必要があり、委員会規程案について広く意見を聞きながら慎重に検討したい旨が述べられた。

8. 次期大会校について

吉田会長より、次期大会校は関西学院大学であり、富江英俊大会校理事にお引き受けいただく旨提案され、承認された。

9. 前回理事会議事録の承認

天童事務局長より、第3回理事会議事録案の確認の依頼があり、確認の上承認された。

2020学会年度第1回理事会（2021年1月9日 zoom オンライン開催）

I. 報告事項

1. 会長報告

吉田会長より、2020学会年度の学会活動について報告があった。

2. 事務局長報告

1) 第72回オンライン大会（試行）会計報告

天童事務局長から、第72回大会の会計および参加者数について報告があった。通常の大会補助に加え、オンライン開催に際しての特別補助がなされたこと、残額について学会会計に返金されたことの報告があった。

2) 第72回オンライン大会（試行）報告と引継ぎについて

相澤事務局次長・COVID-19対策特別WG長から、第72回大会の参加者に対するアンケート調査の結果および引き継ぎの状況について報告があった。

3. 各部・委員会報告

1) 企画部報告

中澤企画部長から、①理事会等のオンライン開催化、②編集委員会の体制、③学会運営の業務の規模・内容の整理、④人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）への対応について提案があった。④については理事の増員を検討後、新たな部として構成する案が説明された。

2) 会計部報告

鳥会計部長より、①2020学会年度第一四半期の状況、②ガリレオからの10月分事務委託費請求、③仮払金振込手続き、④前期仮払金の残金について、⑤会計処理ガイドに基づいた適正な会計のお願いについて報告があった。

3) 広報部報告

濱中広報部長より、学会ホームページのリニューアルについて、委託業者の選定状況、意見募集やラフ案の常務会への共有を行ってきたこと、サイトデザインイメージ、ドメイン、現在のページから移行する過去の記事について報告があった。サイトデザインに関連して、色覚特性のある閲覧者における閲覧のしやすさについて質問があり、引き続き検討を行うことの報告があった。

4) 年次研究大会支援部報告

年次研究大会支援部からの報告はなかった。

5) 教育部報告

内田教育部長から、若手研究者交流会の開催報告、3月の若手研究者セミナーについては見直しを含めて慎重に検

討していることの報告があった。

6) 会員管理部報告

白松会員管理部長より、退会者について報告があった。

次に、2021・22学会年度理事選挙、並びに会長選挙について選挙管理委員会のスケジュール案について報告があった。また、会長選挙のオンライン化について案が説明された。いずれについても、異議は出なかった。

7) 編集委員会報告

中村編集委員長より、①第107集の刊行、②第108集について投稿論文の受理・査読および特集の進行状況、③第109集レビュー論文の進行状況、④第110集特集の検討状況について報告があった。

オンライン投稿システムの導入について、中村編集委員長、井上編集副委員長から説明があった。オンライン投稿システムおよび投稿規定の改訂について報告され、投稿規定については、若干の文言修正の後、第109集の投稿から運用を開始することが確認された。

また、中村編集委員長から、企画部からの提案に基づき、常時投稿の可能性や査読結果の提示方法、再査読の体制について継続して検討中であることの報告があった。

8) 研究委員会報告

山内研究委員長、原研究副委員長、大多和研究副委員長から、今年度の第73回年次研究大会の課題研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲについて、テーマおよび登壇者の案が報告された。

9) 国際委員会報告

山田国際委員長より、①2020年10月23日の台湾教育社会学会に吉田会長と山田国際委員長がビデオ報告等を行ったことが報告された。今後も国際的学会交流を進めていくこと、海外での学会発表の支援について検討中であること、海外からのオンライン参加の場合の支援等についても現在検討中であることの報告があった。

10) 学会賞選考委員会報告

古賀学会賞選考委員長より、2020学会年度の学会賞（著書の部）の進行状況について報告があった。

4. その他

1) 第73回大会について

富江大会校理事より、現時点での準備状況の報告があった。大会開催スケジュールについて、9月中旬を予定することの報告があった。

2) 法人化検討WG報告

塚原法人化検討WG長より、第2回パブリックコメントの結果と定款等規則の改訂案について報告があった。

3) 倫理WG報告

片岡倫理WG長より、今後の倫理委員会規程案の検討スケジュールについて説明があった。また、倫理委員会規程案（2020年9月4日案を原案とする）について会員からのパブリックコメントを2021年2月～3月に募り、2020学会年度第3回常務会、第2回理事会に向けて修正をする予定であることの報告があった。

II. 審議事項

1. 入会申込者の承認について

白松会員管理部長から、入会申込者について説明があり、審議の上、承認された。

2. GEAHSS担当理事の増員

吉田会長より、GEAHSS担当理事について1名増員（木村涼子理事）とすることについて提案があり、審議の上、承認された。

3. 前回理事会議事録の承認

天童事務局長から、前回（2019学会年度第4回）理事会議事録案の確認依頼があり、一部修正の上、承認された。

（事務局長：天童睦子）

常務会の記録

2019学会年度第8回常務会（2020年9月4日 zoom オンライン開催）

I. 報告事項

1. 会長報告

吉田会長より、第72回大会について、初のオンライン大会（試行）を有意義なものとしたいとの発言があった。

2. 事務局・大会関連

相澤事務局次長・COVID-19対策特別WG長より、オンライン開催において録音・録画を原則禁止としているが、ブリテンや『教育社会学研究』への掲載のための例外的措置として課題研究のみ録音・録画を認めることの説明があった。

3. 会務報告

1) 総括報告

各部・委員会より、資料の通り理事会で報告することが述べられた。なお、山内研究委員長より、資料の文言の一部訂正があり、理事会資料および総会資料では、修正されることとなった。

学会賞選考委員会報告として、古賀学会賞選考委員長より、受賞者へのスピーチも依頼済みであることの報告があった。学会賞授賞式に際して、相澤事務局次長より、総会とは別のzoomリンクが用意されていることが説明された。

相澤事務局次長より、年間スケジュールについて説明があった。広報部の学会HPリニューアル計画、選挙スケジュールについて確認がなされた。

II. 審議事項

1. 2019会計年度決算案について

島会計部長より、決算全体として、当期収入・支出の説明があった。特別会計については、オンラインでの大会実施のために、特別会計の研究奨励・学会活動活性化基金から大会補助費として追加配分を行ったことが報告された。

2. 2020会計年度予算案について

島会計部長より、2020年度予算編成の基本方針について、収入・支出の設定、特別会計、その他について説明があった。一般会計は、学会HPリニューアルの実施、理事会・事務局経費や各委員会経費の減額を行うことが説明さ

れた。ただし、編集委員会経費は、減額を行なった上で、オンライン投稿化に関わる経費としての15万円を増額する形とするとの報告があった。

3. 入会の仮承認について

白松会員管理部長より、オンライン大会参加のための入会希望者がありメール審議を行ったことが説明され、仮承認として対応した旨の報告があった。

4. 編集委員会 委員（増員）の承認について

中村編集委員長より、資料の通り理事会で諮りたいとの発言があった。

5. 選挙管理委員会について

白松会員管理部長より、2020学会年度理事選挙管理委員会構成員について説明があった。

6. 学会の一般社団法人化の検討

塚原法人化WG長より、資料の通り理事会で報告することが述べられた。

7. 倫理規程案の検討

片岡倫理WG長より、資料の通り理事会で報告することが述べられた。

8. 次期大会校について

吉田会長より、次期大会校について、関西学院大学にお引き受けいただけることになったことが報告された。

9. 総会次第の確認

天童事務局長より、諸会議進行表にもとづき、理事会、総会打ち合わせ、2019学会年度総会、学会賞授与式、評議員懇談会の一連の流れと、会長による開会挨拶の場所（I-1部会）の確認があった。

10. 前回常務会議事録の承認

天童事務局長より、第7回常務会（臨時第2回）議事録案の確認依頼があり、確認の上、承認された。

2020学会年度第1回常務会(2020年11月21日 zoom オンライン開催)

I. 報告事項

1. 会長報告

吉田会長から、1) 学会初のオンライン大会開催について、参加者472名で無事終了したこと、2) 学会の一般社団法人化案について、2020年9月大会時の総会提案を延期したが準備は整っていること、3) 日本学術会議第25期新規会員候補の任命問題について、学会理事会として2020年10月7日に緊急声明を発出し、また人文・社会科学系学協会「共同声明」にも加わったこと、4) 台湾教育社会学会が開催され、会長もビデオ報告を行ったことの報告があった。

2. 事務局長報告

天童事務局長から、コロナ禍の影響により、常務会理事会を当面オンラインで実施すること、年次研究大会を含む今後については状況を見て判断したい旨の報告があった。

3. 大会関係

相澤事務局次長から、オンライン大会参加者アンケートについて、通常の大会とほぼ同様に満足が得られていること、詳細なアンケートの分析は相澤事務局次長と大多和研究副委員長で進めることの報告があった。また、試行的な

オンライン大会で、発生した業務や引き継ぎの内容について、2020年中に研究委員会、年次研究大会支援部とともにとりまとめることの報告があった。

4. 各部・委員会報告

1) 企画部報告

中澤企画部長（天童事務局長代読）より、①常務会・理事会のオンライン開催、②編集委員会の常時投稿制度導入に向けた課題、③GEAHSS対応を含むダイバーシティ推進のための新組織について報告があった。また、吉田会長から、学会常務会や理事会の業務負担にかかわる長期的課題について発言があった。

①については、天童事務局長から、現時点では3月までオンライン開催で進めている旨の発言があった。③GEAHSSについては、天童事務局長から、担当理事の追加指名等の対応の可能性が提案され、多賀理事、企画部と打ち合わせの上速やかに進める旨の発言があった。

2) 会計部報告

島会計部長から、①2020学会年度の仮払金振り込み、②会計処理の方法、③ガリレオからの事務委託費請求について報告があった。

3) 広報部報告

濱中広報部長から、学会ウェブサイトリニューアルについて、①相見積もり等の検討の結果、有限会社チェロトン業者として選定したこと、②常務会内で11月・12月に意見を聞き2021年4月のリニューアルに向けて作業を進めること、③サイトデザインや構成案、④今後のウェブサイト更新の体制、⑤ドメインの検討、⑥サイト構成やレイアウト案についての報告があった。

⑤に関連して、相澤事務局次長からドメインの決定時期について質問があり、濱中広報部長・立石広報副部長から、2021年1月理事会までには確定状態にしたいと返答があった。

⑥に関連して、多言語対応について議論があった。相澤事務局次長から、2010年のリニューアル時に韓国語中国語を設置したが、今回のリニューアルでどう考えるかについて質問があった。山田国際委員長から、多言語でウェブサイトを作るのは難しく、英語で特化してページ作成する方がむしろ発信力につながるとの観点から国際委員会で検討中であることの発言があった。また、韓国語中国語ページについては更新が進んでいない状況について、英語以外のページ作成について過去に手間が大きかったことが説明された。英語のページをどの程度作成するかについては、海外からの大会参加申込者に向けて、大会情報の更新が必須であることの発言があった。

また、天童事務局長から、ウェブサイトリニューアルにかかわる若干の予算の不足分について、事務局経費による対応が提案され、異議は出なかった。

4) 年次研究大会支援部報告

朴澤年次研究大会支援部長から、次期大会校への申し送りとして、第72回大会時には試行的オンライン開催であり報告タイトルの変更等に柔軟に対応したが、今回はイレギュラーな対応を引き継がずに通常通り厳格な対応に戻すことの報告があった。

5) 教育部報告

内田教育部長から、①高校生からの問い合わせへの対応、②若手研究者交流会について報告があった。①に関連して、相澤事務局次長から、日本社会学会がウェブサイト内に「高校生向け」のページを作成しているように、学会として高校生の調べ学習等にどう答えて教育社会学をアピールしていくかを考えていく必要もあることの発言があった。濱中広報部長から、今後の学会ウェブサイトリニューアルのなかで、引き続き検討する旨の発言があった。②若手研究者交流会について、参加人数も多く、ディスカッションも盛況であった旨の報告があった。加えて、内田部長から、若手研究者交流会に学部生の参加者も多かったことから、学部生に向けた教育社会学のアピールの機会を検討する必要があるとの発言があった。

6) 会員管理部報告

白松会員管理部長から、退会者の報告があった。

7) 編集委員会報告

渡邊編集副委員長から、第107集および第108集の編集状況について報告があった。井上編集副委員長から、オンライン投稿システムの導入について第109集投稿から導入すること、また仕様について詳細を検討中であることの報告があった。また、企画部からの提案事項については、今後検討することの報告があった。投稿規定の変更については、12月編集委員会で決定後、次回常務会・理事会で報告する旨の発言があった。

8) 研究委員会報告

山内研究委員長・原研究副委員長から、第73回大会課題研究について、3つの課題研究案について説明があった。一部タイトルについて、より聴衆にわかりやすいものがよいのではないかと意見が出され、引き続き検討されることになった。

9) 国際委員会報告

山田国際委員長から、台湾教育社会学会が開催され、吉田会長、山田国際委員長がビデオによる講演を行ったことの報告があった。また、日本教育学会による関連諸学会の国際活動・国際化に関わるヒアリングに対応予定であることの報告があった。

関連して、天童事務局長から、国際委員会としての活動を振り返って発展させる必要があることの発言があった。山田国際委員長から国際活動奨励賞のような活動について引き続き検討するとの返答があった。

10) 第73回大会について

富江大会校理事から、大会日程は引き続き検討中であり、次回理事会で報告の見込みであること、オンライン実施も視野に、開催方法を検討していることの報告があった。

11) 法人化検討WG報告

塚原WG長（天童事務局長代読）から、2回の法人化に対するパブリックコメントへのお礼と、規則案を今後共有することの報告があった。

II. 審議事項

1. 入会申込者の仮承認について

白松会計部長から、入会申込者について説明があり、仮承認された。

2. 前回常務会議事録の承認

天童事務局長から、前回（2019学会年度第8回）常務会議事録案の確認の依頼があり、確認の上、承認された。

2020学会年度第2回常務会（2021年1月9日 zoom オンライン開催）

1. 報告事項

1. 会長報告

吉田会長より、2020学会年度の学会活動全体の進行状況について報告があった。

2. 事務局長・大会関係報告

1) 第72回オンライン大会（試行）会計報告

天童事務局長から、第72回大会の会計報告があった。オンライン開催にかかる予算を今後精査することなどが議論された。

2) 第72回オンライン大会（試行）報告と引継ぎについて

相澤事務局次長から、第72回大会の参加者に対するアンケート調査の結果および引き継ぎ状況について報告があった。また、富江大会校理事と今後の引き継ぎについて検討する予定であることの報告があった。

3. 各部・委員会報告

1) 企画部報告

中澤企画部長から、①理事会等の会議のオンライン化、②編集委員会の体制、③学会運営の業務の規模・内容の整理、④人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）への対応について提案があった。③については、常務会・理事会における問題意識の共有を進めることの提案がされた。④については理事を1名増員し、新たな部として構成することの提案がされた。関連して、多賀GEAHSS担当理事から、今後、学会外に向けてダイバーシティ対応への態度を示すため組織体制を学会内で整える必要があることの発言があった。

2) 会計部報告

島会計部長より、①2020学会年度第一四半期の状況、②ガリレオからの10月分事務委託費請求、③仮払金振込手続き、④前期仮払金の残金について、⑤会計処理ガイドに基づいた適正な会計のお願いについて報告があった。

3) 広報部報告

濱中広報部長より、学会ホームページのリニューアルについて、意見募集やラフ案の常務会への共有を行っており、サイトデザインイメージ、ドメイン、移行する過去の記事について報告があった。

4) 年次研究大会支援部報告

朴澤年次研究大会支援部長から、第72回大会の広告収入についての報告があった。

5) 教育部報告

内田教育部長から、大会前日の若手研究者交流会の開催報告があった。間山教育副部長から、高校生からの問い合わせへの対応が報告された。

6) 会員管理部報告

白松会員管理部長より、退会者（逝去2名）について報

告があった。また、2021・22学会年度理事選挙、並びに会長選挙に向けた選挙管理委員会のスケジュール案について報告があった。会長選挙についてはこれまで郵送で行っていたのをオンライン化することについて案が出され、COVID-19の情勢やこれまでの理事選挙の実績等からも、オンライン化することに問題ないといった発言があり、異議は出なかった。

7) 編集委員会報告

中村編集委員長、井上編集副委員長からオンライン投稿システムおよび投稿規定の改訂について報告がされた。

8) 研究委員会報告

第73回大会の課題研究について、山内研究委員長、原研究副委員長、大多和研究副委員長から、3つの課題研究について、テーマおよび登壇者の案が報告された。

9) 国際委員会報告

山田国際委員長より、海外での学会発表の支援、また海外からのオンライン参加の場合の支援等について検討中との報告があった。また、日本教育学会による関連学会の国際化状況の調査について、対応したことの報告があった。

10) 学会賞選考委員会報告

古賀学会賞選考委員長より、2020学会年度の学会賞（著書の部）の進行状況について報告があった。

4. その他

1) 第73回大会について

富江大会校理事より、大会日程案、準備状況の報告があった。

2) 法人化検討WG報告

塚原法人化検討WG長より、第2回パブリックコメントの結果と定款等規則の改訂案について報告があった。

3) 倫理WG報告

片岡倫理WG長より、倫理委員会規程案の検討スケジュールについて、説明があり、パブリックコメントの募集を検討中であることの報告があった。

II. 審議事項

1. 入会申込者の仮承認について

白松会員管理部長から、入会申込者について、説明があり、審議の上、仮承認された。

2. GEAHSS担当理事の増員

中澤企画部長、多賀GEAHSS担当理事、吉田会長より、GEAHSS担当理事について1名増員（木村涼子理事）とすることの提案があり、審議の上、仮承認された。

3. 前回常務会議事録の承認

天童事務局長から、前回（2020学会年度第1回）常務会議事録案の確認依頼があり、承認された。

（事務局長：天童睦子）

寄贈図書

著者	書名	出版社	寄贈者	受取日
岩下誠, 三時眞貴子, 倉石一郎, 姉川雄大(著)	問いからはじめる教育史	有斐閣	著者	2020年10月
大槻達也, 小林雅之, 小松親次郎(編著)	2020年以降の高等教育政策を考える: グランドデザイン 答申を受けて	論創社	著者	2020年10月
瀬尾悠希子(著)	多様化する子どもに向き合う教師たち: 継承語教育・補 習授業校におけるライフストーリー研究	春風社	出版社	2020年10月
細尾萌子, 夏目達也, 大場淳(編)	フランスのバカロレアにみる論述型大学入試に向けた思 考力・表現力の育成	ミネルヴァ書房	著者	2020年11月
羽田貴史(著)	科学技術社会と大学の倫理	東信堂	著者	2020年12月
吉本圭一氏(著)	キャリアを拓く学びと教育	科学情報出版	著者	2020年12月
クリスティ・クルツ(著), 仲田康一(監訳), 濱元伸彦(訳)	学力工場の社会学	明石書店	出版社	2020年12月
西村幸満(著)	生活不安定層のニーズと支援: シングル・ペアレント、 単身女性、非正規就業者の実態	勁草書房	出版社	2021年2月
吉益敏文, 濱田郁夫, 久富善之(編著)	検証・全国学力調査: 悉皆式を止め、抽出式で3年に一度 で	学文社	出版社	2021年2月
神林寿幸, 樋口修資, 青木純一(著)	背景と実態から読み解く教育行財政	明星大学出版部	著者	2021年2月
小澤浩明(著)	ブルデューの教育社会学理論: 教育システムと社会階級・ 社会秩序の再生産と変革の理論	学文社	出版社	2021年3月
川上泰彦(著)	教員の職場適応と職能形成	ジアース教育新社	著者	2021年3月
小島祥美(編著)	Q&Aでわかる外国につながる子どもの就学支援: 「でき ること」から始める実践ガイド	明石書店	出版社	2021年3月
園山大祐(編著)	フランスの高等教育改革と進路選択: 学歴社会の「勝 敗」はどのように生まれるか	明石書店	出版社	2021年3月

学会への連絡、および各種手続きに関しては以下までお願いいたします。

●学会事務局

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-24-1-4F
ガリレオ学会業務情報化センター内
日本教育社会学会

E-mail : g003jses-mng@ml.gakkai.ne.jp

●ブリテン編集部（投稿・問い合わせ）

濱中淳子（広報部長）
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1
早稲田大学 教育・総合科学学術院

E-mail : jhama@waseda.jp

●ホームページ

URL : <https://jses-web.jp/>

日本教育社会学会会報 No.174

2021年5月7日発行

発行 日本教育社会学会

会長 吉田 文

編集 日本教育社会学会広報部

印刷 タマタイプ

〒208-0002 武蔵村山市神明2-78-1

Tel : 042-562-0965 Fax : 042-566-1084